

1 研究主題及び研究仮説について

(1) 研究主題

「見つめる力」と「見通す力」の育成
 ～人との関わり、学びのつながりを意識した授業改善を通して～

(2) キャリア教育が求められる背景

社会の変化と発達の段階を見通したキャリア形成の問題点の一つは、現在行われている教育活動の一つ一つが、児童生徒のキャリア意識形成にどのような影響を与えているのかが明確にされていないことである。例えば、「二分の一成人式を実施したか」や「職場体験活動を何日間実施したか」といったアウトプット評価はこれまでもなされてきたが、「職場体験活動を通して生徒たちにどのような変化がみられるのか」「生徒たちにどのような力が身に付いたのか」といったアウトカム評価は各学校に委ねられており、それに関する調査や研究は進んでいない。また、平成29年告示学習指導要領から、全教育活動を通して行われるもの全てがキャリア教育であると包括的な捉え方をされているが、自己肯定感や自己決定といったキャリア教育を通して醸成されると期待されるものが、キャリア教育のどの活動を通して形成されているのか、整理されていないという問題もある。活動の何が児童生徒のキャリア意識形成に影響を与え、どのような力が身に付き、どのような姿を見せるのか、これらが明確になっていないことがキャリア教育が進みにくい大きな一因になっていると考える。それらのことから、キャリア教育における活動で、様々な社会的能力がどのようなプロセスで形成され、そのとき児童生徒はどのような姿を見せるのかについて一定の見解を得ることは、意義があることであると考えられる。

(3) 主題設定の理由

本中学校区では、令和3年度から広島県教育委員会より、「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定を受け、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動を進めてきた。中学校区で育てる資質・能力をそそえ、児童生徒の発達の段階に応じたルーブリックを設定し、各教科における授業改善の取組を着実に重ねてきた。

<育てたい資質・能力（※4つの基礎的・汎用的能力を児童生徒にわかる言葉に整理した）>

○見つめる力…自己理解・自己管理能力 ○関わる力…人間関係形成・社会形成能力

○やり抜く力…課題対応能力 ○見通す力…キャリアプランニング能力

※基礎的・汎用的能力：様々な職業をやり遂げていくうえで必要となる基礎的な能力のこと。

研究一年次は、広島市内の大手企業6社に協力いただいた企業説明会や面接体験など、社会と関わり職業観を児童生徒に考えさせる施策を新たに企画・実施することができた。一方、活動における児童生徒の資質・能力の達成状況の評価については課題が残った。

そこで研究二年次では、学校行事の活動前後において、自己評価シート等に児童生徒の資質・能力の達成状況を記載させ、その記述から、活動ごとの資質・能力の評価を確実に進めることができた。児童生徒と付けたい力やなりたい姿を活動前に共有し、自己評価シート等をベースに見通しを立て振り返る活動を積み重ねてきた。その結果、今の学習が未来や他の学びにつながることに気付いたり、キャリア教育における目標を持って努力したりしながら生活し、自分の成長を振り返ることができるようになってきた。しかし、年間を通した評価計画が漠然としており、評価の方法や計画については改善の余地があったと考えた。

研究三年次である昨年度は、育てたい資質・能力を焦点化し、どのタイミングでどのような視点で評価・分析を行っていくのか計画するとともに、日頃の授業の中でどのような手立てや見取りが必要か検

討するなど、児童生徒の成長がより見える形になるよう改善を図った。

成果として、学校行事や各教科等の単元ごとの資質・能力に対する振り返りの記述において、自分自身を見つめ、コントロールしようとする記述が見られたことから、「見つめる力」の向上を見取ることができた。また、「めざす自分」シートをはじめとした事前事後の振り返りを丁寧に行うことで、目標を立て、達成するための見通しを持って取り組むことができ、「見通す力」の向上も見取ることができた。また、将来自分が働くことについて考えるきっかけを数多く取り入れた学習活動を組織的に計画することができた。課題としては、「めざす自分シート」の振り返りにつまずきのある生徒に対し、十分に手立てを講じることができなかった。振り返りの質を向上させていくためのアプローチを考えていく必要がある。

研究指定を終えたが、この三年間で築いてきたキャリア教育の視点を取り入れた教育活動を持続し、企業や大学などの外部機関と連携しながら自分自身のことを見つめ、多様化する社会の中で将来の自分の姿を具体的に想像する力を育成していきたい。

以上のことから、今年度も引き続き「見つめる力」と「見通す力」の育成～人との関わり、学びのつながりを意識した授業改善を通して～」を研究主題とし、主に「見つめる力」と「見通す力」の育成に焦点化し、取組を進める。

(3) 研究仮説

キャリア教育の視点で、人との関わりや学びのつながりを意識した授業改善に取り組めば、生徒の「見つめる力」と「見通す力」が向上し、発達の段階に応じたキャリア発達が促されるであろう。

2 研究内容

P キャリア教育活動の枠組みづくり

- ・「見つめる力」「見通す力」に焦点化したアンケート項目の検討
- ・「見つめる力」「見通す力」を育成する取組の焦点化
- ・各教科等の年間指導計画の中に育成したい資質・能力を記載する
- ・キャリア教育視点を取り入れた授業スタンダードの作成
- ・学習指導案様式の中にキャリア教育のルーブリック評価基準を記載する
- ・行事における自己評価シートを活用した見取り
- ・一年間を通しての「めざす自分シート」を活用した見取り

D キャリア教育活動の実践

- ・将来の幸せな自分へのイメージマップ作り（1年生）
- ・身近な大人へのインタビュー（職場体験活動先を含む）（1年生）
- ・キャンパス見学（1年生）
- ・小学校6年生に中学校の魅力伝える会（1年生）
- ・職場体験活動（2年生）
- ・立志の会（2年生）
- ・高校からゲストティーチャーを呼び、「卒業生に学ぶ会」の設定（3年生）
- ・企業面接体験（3年生）
- ・出張授業の企画、実施（地域の人との関わり）

C 評価・分析

- ・全国学力調査、広島県児童生徒学習意識等調査、アンケート
めざす自分シート、自己評価シート等のポートフォリオ

A 学期ごとの研修の中で、評価・分析をもとに、取組の改善や方向付けをする

(1) 検証の指標

項 目	具体的な取組の内容			
	指標	達成目標	検証時期	検証方法
成果指標	自分の長所や短所、興味のあることを理解している児童生徒の割合（自己理解能力、自己管理能力）	記述に変容や深まりが見られた児童生徒 80%以上	・学期末と学年末	「めざす自分」シートの記述
		記述に変容や深まりが見られた児童生徒 80%以上	・通年	総合的な学習での自己評価シート
	自分の個性や興味・関心のあることに基づいて、中学校卒業後の進路やどんな大人になりたいかを考えている児童生徒の割合（キャリアプランニング能力）	記述に変容や深まりが見られた児童生徒 80%以上	・学期末と学年末	「めざす自分」シートの記述
		記述に変容や深まりが見られた児童生徒 80%以上	・通年	総合的な学習での自己評価シート